

連 結 貸 借 対 照 表

(2019年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	78,896	流 動 負 債	99,373
現金及び預金	1,321	支払手形及び買掛金	49,017
受取手形及び売掛金	24,425	1年内返済予定の長期借入金	15,873
商品及び製品	46,853	1年内償還予定の社債	210
仕掛品	929	リース債務	67
預け金	3,195	未払金	23,727
その他	2,207	未払法人税等	799
貸倒引当金	△36	資産除去債務	105
		その他	9,571
固 定 資 産	138,390	固 定 負 債	64,646
有 形 固 定 資 産	118,440	社 債	240
建物及び構築物	25,130	長期借入金	24,370
機械装置及び運搬具	22,907	リース債務	274
土地	67,478	繰延税金負債	9
リース資産	331	再評価に係る繰延税金負債	5,820
建設仮勘定	1,283	役員退職慰労引当金	759
その他	1,308	退職給付に係る負債	32,557
無 形 固 定 資 産	2,477	資産除去債務	194
投資その他の資産	17,473	その他	421
投資有価証券	2,410	負 債 合 計	164,019
繰延税金資産	10,559	純 資 産 の 部	
その他	4,918	株 主 資 本	44,990
貸倒引当金	△414	資 本 金	6,975
繰 延 資 産	4	資 本 剰 余 金	6,823
社債発行費	4	利 益 剰 余 金	31,204
		自 己 株 式	△13
		その他の包括利益累計額	8,254
		その他有価証券評価差額金	365
		土地再評価差額金	9,260
		退職給付に係る調整累計額	△1,370
		非 支 配 株 主 持 分	26
		純 資 産 合 計	53,271
資 産 合 計	217,291	負 債 及 び 純 資 産 合 計	217,291

連 結 損 益 計 算 書

(自 2018 年 4 月 1 日)
(至 2019 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

売 上 高		437,889
売 上 原 価		360,859
売 上 総 利 益		77,029
販売費及び一般管理費		74,502
営 業 利 益		2,526
営業外収益		
受 取 利 息	13	
受 取 配 当 金	150	
受 取 賃 貸 料	111	
そ の 他 営 業 外 収 益	444	719
営業外費用		
支 払 利 息	511	
そ の 他 営 業 外 費 用	125	637
経 常 利 益		2,607
特別利益		
固 定 資 産 売 却 益	249	
事 業 譲 渡 益	120	370
特別損失		
固 定 資 産 処 分 損	116	
減 損 損 失	118	
そ の 他 特 別 損 失	359	594
税金等調整前当期純利益		2,383
法人税、住民税及び事業税	1,345	
法人税等調整額	△369	976
当 期 純 利 益		1,407
非支配株主に帰属する当期純損失		3
親会社株主に帰属する当期純利益		1,410

連結株主資本等変動計算書

(自2018年4月1日)
至2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株主資本合計
当期首残高	6,975	6,823	31,447	△12	45,234
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△1,653		△1,653
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,410		1,410
自己株式の取得				△1	△1
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計			△242	△1	△244
当期末残高	6,975	6,823	31,204	△13	44,990

	その他の包括利益累計額				非支配株主 持 分	純資産合計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	土 地 再 評 価 差 額 金	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
当期首残高	460	9,260	△1,410	8,311	29	53,575
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当						△1,653
親会社株主に帰属する 当期純利益						1,410
自己株式の取得						△1
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	△95		39	△56	△3	△59
連結会計年度中の変動額合計	△95		39	△56	△3	△303
当期末残高	365	9,260	△1,370	8,254	26	53,271

連結注記表

1. 記載金額

記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。

2. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

- ①連結子会社の数 11社
②主要な連結子会社の名称 ヤナセバイエルンモーターズ(株)
ヤナセオートモーティブ(株)
(株)ヤナセオートシステムズ
③非連結子会社の名称 (株)ヤナセエキスパートサービス
(株)コミネ

(株)ヤナセエキスパートサービスは、(株)アウトグリュックが2018年6月26日付で商号変更したものであります。

- ④非連結子会社について連結の範囲から除外した理由
非連結子会社は、いずれも小規模であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

(2) 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した非連結子会社及び関連会社はありません。

なお、当社において関連会社に該当する会社はありません。

持分法を適用しない非連結子会社は、いずれも当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、連結財務諸表に及ぼす影響は軽微であり、かつ全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

(4) 会計方針に関する事項

①有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

②デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法（為替予約の振当処理及び金利スワップの特例処理を除く）

③たな卸資産の評価基準及び評価方法

商 品

車両は個別法、部品等は総平均法または移動平均法による原価法（収益性の低下に伴う簿価切下げの方法）

仕 掛 品

個別法による原価法（収益性の低下に伴う簿価切下げの方法）

貯 蔵 品

先入先出法による原価法（収益性の低下に伴う簿価切下げの方法）

④固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法（なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法）

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

⑤引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

⑥退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間に基づく年数（12～17年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の際連結会計年度から費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑦外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

⑧ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約については振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を、金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建金銭債務及び予定取引
金利スワップ	借入金

ヘッジ方針

当社グループの社内規程である「市場リスク管理規程」に基づき、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジすることを原則としております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

なお、振当処理によった為替予約及び特例処理によった金利スワップについては、有効性評価を省略しております。

⑨繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還期間にわたり定額法により償却しております。

⑩消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

⑪連結納税制度の適用

当社及び一部の連結子会社は、当社を連結納税親法人とした連結納税制度を適用しております。

(5) 表示方法の変更

(『税効果会計に係る会計基準』の一部改正)の適用)

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産

[担保に供している資産]

種 類	期末帳簿価額
商 品	25,319 百万円
車両運搬具	17,525 百万円
計	42,844 百万円

[担保に係る債務]

内 容	期末帳簿価額
買 掛 金	23,622 百万円
未 払 金	18,279 百万円
計	41,901 百万円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額

45,081 百万円

(3) 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、当社の事業用土地の再評価を行なっております。

再評価を行なった年月日

1999年9月30日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める、地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算出

同法律第10条に定める再評価を行なった事業用土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額

4,687 百万円

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度の末日における発行済株式の総数

普通株式

47,260,000 株

(2) 当連結会計年度中に行なった剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月24日 取締役会	普通 株式	1,653	35	2018年3月31日	2018年6月13日

(3) 当連結会計年度の末日後に行なう剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月24日 取締役会	普通 株式	708	利益剰余金	15	2019年3月31日	2019年6月13日

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金調達について、従来は銀行等の金融機関からの借入によっておりましたが、当連結会計年度の新規調達から親会社である伊藤忠商事㈱が提供するグループ金融制度による方針としております。また、一時的な余資については同制度を利用した預け金に限定して運用しております。

②金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの債権管理の基準に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握することにより、リスクの軽減を図っております。投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価及び発行体の財政状況等を把握するなどの方法によりリスク管理を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。なお、一部の外貨建て営業債務については、為替の変動リスクを回避するため、デリバティブ取引（為替予約取引）をヘッジ手段として利用することがあります。

長期借入金は、主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利の長期借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、長期借入金の一部については、当該リスクを回避し支払利息の固定化を図るため、デリバティブ取引（金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用しております。

なお、全ての金利スワップ取引が特例処理の要件を満たしているため、ヘッジの有効性の評価については、その判定をもって、その評価を省略しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限等を定めた当社グループの社内規程である「市場リスク管理規程」に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するため、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

なお、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が月次に資金収支計画を作成するなどの方法によりリスク管理を行っております。

③金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、「(2) 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（注2）参照。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	1,321	1,321	-
(2) 受取手形及び売掛金	24,425	24,425	-
(3) 預け金	3,195	3,195	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	1,129	1,129	-
資 産 計	30,071	30,071	-

	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
(1) 支払手形及び買掛金	49,017	49,017	-
(2) 社 債(*1)	450	452	2
(3) 長期借入金(*2)	40,244	40,396	152
負 債 計	89,711	89,866	155
デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されているもの	-	-	-
デリバティブ取引計	-	-	-

(*1) 1年内償還予定の社債を含めております。

(*2) 1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、並びに(3) 預け金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券は株式であり、時価については取引所の価格によっております。

なお、投資有価証券は、その他有価証券として保有しており、これに関する連結貸借対照表計上額と取得原価との差額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差 額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	1,129	603	526
	小計	1,129	603	526
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	小計	-	-	-
合 計		1,129	603	526

負 債

(1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 社債

当社の発行する社債の時価については、元利金の合計額を同様の新規発行を行なった場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行なった場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。ただし、長期借入金のうち特例処理を採用する金利スワップをヘッジ手段として利用しているものについては(下記「デリバティブ取引②」参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行なった場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

①ヘッジ会計が適用されていないもの

該当するものはありません。

②ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計の方法ごとの連結決算日における契約額または契約において定められた元本相当額等は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価	当該時価の算定方法
				うち1年超		
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・ 固定支払	長期借入金	9,002	7,008	(*)	

(*) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております(上記「負債(3) 長期借入金」参照)。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区 分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	1,280

非上場株式については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記「資産(4) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,193	-	-	-
受取手形及び売掛金	24,425	-	-	-
預け金	3,195	-	-	-
合 計	28,814	-	-	-

(注4) 社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
買掛金	47,602	-	-	-	-	-
社債	210	240	-	-	-	-
長期借入金	15,873	10,060	6,720	5,150	2,440	-
合 計	63,686	10,300	6,720	5,150	2,440	-

6. 賃貸等不動産に関する注記

重要性がないため、記載を省略しております。

7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たりの純資産額	1,127.17円
(2) 1株当たりの当期純利益金額	29.85円

貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部		金額	負債の部		金額
科目			科目		
流動資産		65,894	流動負債		94,378
現金及び預金		571	支払手形		1,371
売掛金		18,125	買掛金		41,011
商品及び製品		38,579	1年内返済予定の長期借入金		15,873
仕掛金		495	1年内償還予定の社債		210
短期貸付金		2,822	リース債務		53
預り金		3,194	未払金		22,937
未収入金		1,275	未払費用		2,350
その他当座預金		860	未払法人税等		604
貸倒引当金		△30	未払消費税等		3,146
固定資産		141,184	前受金		1,857
有形固定資産		117,602	資産除去債務		105
建物		22,877	その他		4,855
構築物		2,009	固定負債		61,956
機械及び装置		880	社債		240
車両運搬具		20,726	長期借入金		24,370
工具、器具及び備品		1,057	リース債務		237
土地		68,484	再評価に係る繰延税金負債		5,820
リース資産		283	退職給付引当金		30,374
建設仮勘定		1,282	役員退職慰労引当金		683
無形固定資産		1,367	資産除去債務		194
借地権		843	その他		35
ソフトウェア		412	負債合計		156,334
その他当座預金		111	純資産の部		
投資その他の資産		22,214	株主資本		41,124
投資有価証券		2,285	資本剰余金		6,975
関係会社株		3,830	資本剰余金		6,823
長期貸付金		2,808	資本準備金		6,822
差入保証金		4,027	その他資本剰余金		0
繰延税金資産		9,405	利益剰余金		27,339
その他当座預金		724	利益準備金		230
貸倒引当金		△868	その他利益剰余金		27,109
繰延資産		4	固定資産圧縮積立金		3,070
社債発行費		4	別途積立金		12,000
			繰越利益剰余金		12,038
			自己株式		△13
			評価・換算差額等		9,623
			その他有価証券評価差額金		363
			土地再評価差額金		9,260
資産合計		207,083	純資産合計		50,748
			負債及び純資産合計		207,083

株主資本等変動計算書

(自 2018 年 4 月 1 日)
至 2019 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本										
	資本金	資 本 剩 余 金			利 益 剩 余 金					自 己 株	株 資 合 計
		資 本 準備金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 合 計	利 益 準備金	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 合 計		
当期首残高	6,975	6,822	0	6,823	230	3,073	12,000	12,361	27,665	△12	41,451
当期変動額											
剰余金の配当								△1,653	△1,653		△1,653
当期純利益								1,327	1,327		1,327
自己株式の取得										△1	△1
固定資産圧縮積立金の積立						112		△112	-		-
固定資産圧縮積立金の取崩						△115		115	-		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）											
当期変動額合計						△3		△322	△325	△1	△327
当期末残高	6,975	6,822	0	6,823	230	3,070	12,000	12,038	27,339	△13	41,124

	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等 合 計	
当期首残高	458	9,260	9,718	51,170
当期変動額				
剰余金の配当				△1,653
当期純利益				1,327
自己株式の取得				△1
固定資産圧縮積立金の積立				-
固定資産圧縮積立金の取崩				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△95		△95	△95
当期変動額合計	△95		△95	△422
当期末残高	363	9,260	9,623	50,748

個別注記表

1. 記載金額

記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。

2. 重要な会計方針

(1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法(金利スワップの特例処理を除く)

たな卸資産の評価基準及び評価方法

商 品

車両は個別法、部品等は移動平均法による原価法(収益性の低下に伴う簿価切下げの方法)

仕 掛 品

個別法による原価法(収益性の低下に伴う簿価切下げの方法)

貯 蔵 品

先入先出法による原価法(収益性の低下に伴う簿価切下げの方法)

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法(なお、ソフトウェア(自社利用)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法)

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

(3) 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還期間にわたり定額法により償却しております。

(4) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に充てるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間に基づく定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌年から費用処理することとしております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(6) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段
金利スワップ

ヘッジ対象
借入金

ヘッジ方針

当社の社内規程である「市場リスク管理規程」に基づき、金利変動リスクをヘッジすることを原則としております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

なお、特例処理によった金利スワップについては、有効性評価を省略しております。

(7) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの方法と異なっております。

(8) 消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(9) 連結納税制度の適用

当社を連結納税親法人とした連結納税制度を適用しております。

(10) 表示方法の変更

(『税効果会計に係る会計基準』の一部改正)の適用)

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産

[担保に供している資産]

種 類	期末帳簿価額
商 品	21,816 百万円
<u>車両運搬具</u>	<u>17,376 百万円</u>
計	39,192 百万円

[担保に係る債務]

内 容	期末帳簿価額
買 掛 金	20,692 百万円
<u>未 払 金</u>	<u>18,105 百万円</u>
計	38,798 百万円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額

42,934 百万円

(3) 保証債務

関係会社の仕入に対する債務保証 6,814 百万円

(4) 関係会社に対する金銭債権・金銭債務

短期金銭債権	3,799 百万円
長期金銭債権	2,981 百万円
短期金銭債務	6,417 百万円

(5) 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用土地の再評価を行なったおります。

再評価を行なった年月日 1999年9月30日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める、地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算出

同法律第10条に定める再評価を行なった事業用土地の当事業年度末における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 4,687 百万円

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引

(1) 売上高	5,868 百万円
(2) 営業費用	17,331 百万円
(3) 営業取引以外の取引高	1,267 百万円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の数

普通株式 22,174 株

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

未払事業税	38 百万円
未払事業所税	42 百万円
貸倒引当金	107 百万円
未払賞与金	701 百万円
退職給付引当金	9,300 百万円
減損損失	98 百万円
資産除去債務	91 百万円
その他	2,276 百万円

繰延税金資産小計 12,657 百万円

評価性引当額 △1,695 百万円

繰延税金資産合計 10,961 百万円

繰延税金負債

固定資産圧縮積立金 △1,355 百万円

資産除去債務に対応する除去費用 △39 百万円

その他有価証券評価差額金 △160 百万円

繰延税金負債合計 △1,555 百万円

繰延税金資産の純額 9,405 百万円

7. 関連当事者との取引に関する注記

兄弟会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
親会社の子会社	伊藤忠 トラジャー(株)	なし	資金取引	資金の借入 資金の返済 資金取引 (注1)	14,800 800 △431	1年内返済 予定の長期 借入金 長期借入金 預け金	2,680 11,320 3,194

(注1) 資金取引は、CMS(キャッシュ・マネジメント・システム)による取引であり、取引金額は期中における増減額を記載しております。

子会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
子会社	ヤナセハイエル モーターズ(株)	所有 直接 100%	商品の販売 及び購入	資金の貸付 (注1) 資金の回収 債務保証 (注2)	14,300 12,958 2,402	長期貸付金 (注3)	2,792
	ヤナセレスト オート(株)	所有 直接 100%	商品の販売 及び購入	資金の貸付 (注1) 資金の回収	2,850 285	短期貸付金	2,565

(注1) 貸付利率は、市場金利等を勘案し合理的決定しております。

(注2) 仕入債務に対して債務保証を行っているものであります。

(注3) 当該子会社への長期貸付金に対し、506百万円の貸倒引当金を計上しております。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たりの純資産額 1,074.32 円

(2) 1株当たりの当期純利益金額 28.10 円